

# なにもない駅前だからこそできた「つかう会議」のチャレンジ！

## 【事業の概要】

見附市では、市の中心にある見附駅を「人」の結節点にするための駅前整備事業に取り組んでいます。

駅前広場等の整備と並行して駅周辺の様々な使い方のチャレンジに取り組んでいるのが、駅前の使い方を考え行動する任意組織「みつけ駅前つかう会議」。

高校生から高齢者まで、自分たちが「やってみたい！」と思う企画を楽しみながら実現してきたつかう会議の輪が広がり、「つくる」と「つかう」が連動した駅周辺のまちづくりが進んでいます。



多くの人が駅前広場の可能性を感じた「みつけるプロジェクト」（駅前活用実験）写真は高校生や大学生がモデルとなり、見附市の基幹産業である「見附ニット」を使ったファッションショーの様子



駅前にある駐輪場の2階は、社会実験で可能性を顕在化させ「交流スペース」にリノベーション中！（令和4年度工事完了予定）

R4. 3時点



コロナ禍でも、コロナ禍だからこそ様々な活動を試行錯誤して継続



つかう会議メンバーの記念撮影

## 【担当者インタビュー】

見附市 企画調整課  
都市政策室 五十嵐直人さん



### Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

駅前整備事業（ハード）とつかう会議（ソフト）の両方を担当しています。そのため社会実験（みつけるプロジェクト）の必要性や検証結果を事業へ直接反映することができました。

### Q. 小さな地方都市でまちなかウォークブルを推進するポイントは？

小さなプロジェクトにチャレンジする事から始めることが大切だと思います。見附市の場合、駅前には旧見附市と旧今町の間にある駅前とは言えまだ商業等が発達していません。既存の団体や取組がない場所だったことも、新しいチャレンジができた要因だったかもしれません。

### Q. これまでの取組で苦労した点、やりがいを感じた点は？

苦労した点はつかう会議のスキームの構築。継続性を念頭に、市民の反応や意識のずれを確認しながら、急ぎ過ぎるのではなく一段一段ステップアップできるような展開を考え、毎年チャレンジを継続しました。やりがいは、つかう会議のこれまでの活動を通じて、多くの仲間が出来たことです。

### Q. 全国のウォークブル担当者へ一言！

共に頑張りましょう！皆様が活躍する活動事例を参考にしています。